

Mランドニュース Vol.227

丹波ささ山校 令和8年3月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県丹波篠山市池上569
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 近藤 正幸
<https://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

今月の言葉

明日死ぬかのように生きよ

永遠に生きるかのように学べ

マハトマ・ガンディー

小さな幸せ

営業部

後藤 茂



小さな福袋

厳しい寒さが続く丹波篠山の二月。しかし、Mランドのロビーは、寒さを忘れるほどの温かな熱気に包まれました。節分、そしてバレンタインという季節の行事。毎年恒例となっている、お越しいただいた皆さまへ「福」と「幸せ」をお届けするイベントを開催いたしました。

今回、私たちが何よりも大切にしているのは、豆菓子やチョコプレートに添えた職員による「直筆メッセージ」です。スピード感が求められる時代だからこそ、手書きの文字で想いを届けたい。そんな願いから、業務の合間を縫って、一人ひとりが思い思いの言葉を綴りました。

当日の朝、カゴに並んだお菓子を手に取る皆さまの目

には、驚きと、どこか照れくさそうな表情が浮かんでいました。メッセージをじっくりと読み込み、「あー！〇〇インストラクターのコメント見つけた！」「ありがとうございませす♪」と、あちこちで会話が弾みます。



見つけたー♪

中には、お気に入りのインストラクター、いわゆる「推し」のメッセージを宝探しのように探される方の姿もあり、ロビーには笑顔の輪が広がっていました。普段の教習では真剣に向き合うインストラクターとゲストが、共に笑い合っている姿が、共感を生む。そんな光景こそが、Mランドらしい姿なのだと思えてきました。

ここで、お菓子を受け取ったゲストの方から届いた嬉しい感想をご紹介します。

【ゲストからの声紹介】
Mランドのスタッフの皆さま

杉浦 真華

バレンタインのお菓子をくださりありがとうございます。今年もバレンタインと無縁だろうなあと思っていましたので思わぬサプライズにとっても嬉しく、幸せな気持ちになりました。いただいたお菓子を食べてがんばります！



笑顔がいっぱい

ゲストの皆さまが不安を減らして、前向きに、そして笑顔で授業を受けられる環境を創ること。朝一番の「楽しい！」という気持ちがある日一日をより豊かなものに変えていくのだと感じています。

イベントを通じて皆さまの笑顔を拝見し、私たちもまた、たくさん元気を感じました。これからも、こうした小さな幸せを積み重ね、

日本一笑顔があふれる教習所として、皆さまを全力で応援してまいります！
ボランティアと街巡り

Mランドの朝はボランティア活動から始まります。入所してから毎日のように参加された二名の女性ゲストがいました。彼女たちの姿を見て驚いたのは、その圧倒的な「積極性」です。



今日はトイレそうじ

滞在中、ほぼすべてのボランティア活動に参加。そして空きコマ(教習の合間)を見つけては、自転車で丹波篠山の城下町へと散策に出かけていきました。ボランティアで貯めたポイントを使い、「これ、あのお店で買ったんです！」と嬉しそうにお土産を見せてくれる姿は、まさにMランドでの合宿生活を満喫しているようでした。

そんな彼女たちが卒業の日、私に素敵な「宿題」を残してくれました。「自転車で行けるおすすめスポットをまとめた、散策マップがあったら嬉しいですね！どうせなら、私たちも実際に街を巡ったゲストが書き込めるマップにしませんか？」

彼女たちは、「丹波篠山が大好きになりました！」という最高の言葉を残して笑顔で卒業していきました。教習所という枠を超えて、この街の空気や人の温かさに触れ、ファンになってもらえる。そして「また帰ってきたい」と思える場所になる。私たちが目指すべき地域貢献の形なのだ、彼女たちの提案から気づかされました。

さて、いただいた「宿題」をどう形にするか。ゲストの皆さんと共に作る「手作り散策マップ」、今からワクワクしながら構想を練っています。皆さんの「推しスポット」も、ぜひ教えてください！



城下町

十六歳の約束、笑顔の道

やわらぎ課

寺田 隼斗



久しぶりの教室

皆さんは人前で話すのは好きですか？私は昔から目立つことが好きでした。そんな私の性格を知る友人からの依頼で、この度、豊中市立第三中学校様でのキャリア学習の一環である「職業講話」に参加させていただきました。

元気に挨拶をしてもらった瞬間、緊張がパツと解けました。

講話では、今の仕事との出会い、苦労したことや、やりがいについてお話ししました。私の目をまっすぐ見て聞いてくれる子、ノートが真っ黒になるほどメモを取ってくれる子が何名もいて、その真剣な姿に私自身が深く感動してしまいました。

今回、自分自身を振り返ることで、大切な初心を思い出すことができました。少しだけ、私の個人的な話をさせてください。

私がこの仕事を選んだきっかけは、親友の事故でした。昔からの親友と呼べる唯一の存在を、十六歳の時に亡くしました。バイクの事故でした。若さゆえの考えの甘さ、安全への意識の欠如が招いた悲劇でした。

事故から数年後、お墓が完成した際に友人のお母様と交わした言葉が、今も忘れられませんが、「人は忘れられるまで死なないからね。一生、忘れんといてね」

びました。悲しむ人を一人でも減らしたい。その一心で私は教習指導員を目指したのです。

しかし最近の私は、指導員になれたことに満足し、技術や知識を厳しく伝えるばかりになっていったのではないかと、想いを馳せることができていなかったのではないかと自問自答をしているような状態でした。

せつかく目指してなった教習指導員です。これからは悲しむ人を減らすのはもちろん、運転を通じて「笑顔」にすることを目標に歩んでいきたいと思えます。

最後になりますが、豊中市立第三中学校の皆さま、私に大切なことを気付かせてくれる貴重な機会をありがとうございました。

「丸み」とは

サービス課

浦山 朱音

丹波篠山に引っ越してきて、早や一年。

最初は「本当にここで暮らしていいのか」と少し不安もありましたが、四季の移り変わりがすごすぎ

て、気づけばこの土地のペースにすっかり馴染んでしまいました。



校舎からの雪景色

そしてこの冬ついにやりました！人生初の“雪だるまデビュー”です。

私の地元はまったく雪が降らないので、予報に雪マークが出るだけでわくわくします。ある朝、窓を開けたらそこはもう銀世界。私の知らない景色が広がっていました。

テンション爆上がりで出勤すると、Mランドのコースもふわふわの雪が山盛り！さつそく雪だるま作りに取り掛かったのですが、ここでまさかの大ピンチです。「雪って、ちょっと丸めれば磁石みたいに勝手にくっつくもんでしょ？」。そう思っていた私は、転がすたびに雪玉を粉砕

（笑）。雪だるまは一向に大きくならず、私の腕の筋肉だけが無駄にパンパンになっていきました。

それを見かねた永見所長が、「雪だるまはこうやって作るんやで！」と、レクチャーをしてくださいました。雪を固める技術は奥が深すぎます。



上手にできました(笑)

師匠（永見所長）のおかげで、なんとか完成した雪だるまは、少しいびつですが愛嬌たっぷり。どこか自分に似ている気がして、めっちゃくちゃ写真が撮りました。（顔の丸みが似ているわけではないと、自分を強く信じています。）

少しづつ暖かい日が増え、ボランティアなどで使ったタオルが乾くのも早くなりました。春の気配を身近なところで感じる今日この頃です。さて、我が家のバレンタイン。息子がチョコを貰ってきたのですが、お返しや贈る意味をどこまで理解しているのだろうか…。親として温かく見守ってみようと思います。

編集後記

三月十四日に息子はどう動くのでしょうか。次回の編集後記でこそそり触れられたいと思います。

近藤 正幸

「準中型免許」モニターにご協力ください

【準中型自動車免許】の指定前教習を行います。



通常150,000円税込の教習料金が

30,000円税込 さらに1回で合格された方は全額返金

詳しい内容はこちらから

